

ニュースレター No.40

日本英学史学会中国・四国支部 高知研究例会のご案内

拝啓

紅葉の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

本年度第 2 回（通算第 51 回）研究例会を、来る 12 月 4 日（土）に高知市にて開催する運びとなりました。開催にあたりましては高知大学・那須恒夫先生に格別のご配慮を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

今回の研究例会は、高知大学の村端五郎先生より、我が国の近代植物分類学の基礎を築いた高知県出身の植物学者・牧野富太郎の英学についてご講演を頂きます。また、馬本勉氏による広島高師の英語教育に関する研究発表が予定されています。ご多忙の中とは存じますが、会員の皆様にはぜひ高知の地にご参集いただきますようご案内申し上げます。

特に今回は、研究例会のあとに支部の忘年懇親会も企画いたしております。また翌 5 日（日）には高知市内の史跡見学を予定しております。こちらの方へも多くの会員のご参加をお待ちしております。

末筆ながら、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会中国・四国支部事務局

日本英学史学会中国・四国支部 高知研究例会プログラム

日時：平成 15 年 12 月 4 日（土）午後 2 時～午後 5 時

場所：高知大学教育学部

〒780-8520 高知県高知市曙町 2 丁目 5 - 1 Tel: (088) 844-8368

J R 高知駅から 土讃線下り 15 分（朝倉駅下車）徒歩 3 分

または車で約 20 分

研究例会

13:30- 会場受付

14:00-14:10 開会行事

14:10-15:20 講演「牧野富太郎と英学 英和辞書の訳語をめぐって」
村端五郎（高知大学）

15:20-15:30 休憩

15:30-16:20 研究発表「世良寿男の自筆ノートに見る広島高師の英語教育」
馬本 勉（広島県立大学）

16:20-16:50 研究討議

当日の講演ならびに研究発表に関する討議に加え、中国・四国の英学（特に四国・高知）の英学の歴史に関する話題提供など、幅広い討議を予定しています。

16:50-17:00 閉会行事

懇親会（18:00-20:00）（高知市内・会費 7,000 円程度）

史跡見学

12月5日（日）午前中 高知市内 英学関係史跡見学

***** 宿泊のご案内 *****

12月4日（土）

< 宿泊地 > コンフォートホテル高知駅前
（〒780-0056 高知県高知市北本町 2-2-12 TEL088-883-1441）
JR高知駅より徒歩3分

< 宿泊料金 > 5,000 円（シングル・朝食込み）

11月18日（木）までに、事務局までご出席・欠席、ご宿泊のご希望を、

(1) 電子メール（アドレス：umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp）

(2) 別紙「申し込み用紙」をファックスもしくは郵送

のいずれかでお知らせ下さい。御参加の皆様には追って交通のご案内を申し上げます。

日本英学史学会 学会創立 40 周年記念

第 41 回全国大会開催

10月30日(土)~11月1日(月)の3日間、早稲田大学国際会議場において、日本英学史学会全国大会が開催されました。学会創立40周年となる今年は、ハーン没後100年、日米和親条約締結150周年とも重なり、「ハーン、開国、早稲田」のテーマを中心に、数多くの研究発表、講演、シンポジウム、資料展示等が行われました。

中国・四国支部からは、松村幹男先生(広島大学名誉教授)より「直読直解の概念と用語について」という研究発表が行われました。また竹中龍範先生(香川大学)は特別資料展「早稲田大学図書館蔵 英学・洋学資料展」のご担当として、選書や目録作成に当たられました。

開催中には各支部の歴史を振り返る資料展示も行われました。中国・四国支部関係では、紀要『英学史會報』『英学史論叢』の全ナンバー、ニューズレターのほぼ全号、昭和54年に広島で開催された全国大会プログラムなど、充実した資料を展示することができました。資料の収集にご協力くださいました皆様に感謝申し上げます。

今回の全国大会には、中国・四国支部から多くの会員の皆様ご参加なさいました。役員の方呂鞏先生、鉄森令子先生より大会の感想をご寄稿いただきましたのでご紹介いたします。

日本英学史学会創立 40 周年記念

「開国 ハーン 早稲田」に出席して

風呂 鞏

第41回全国大会は母校早稲田大学の国際会議場3Fで開催された。図書館も併設する総合学術情報センターは、筆者卒業の頃(昭和36年)はまだ安田球場として使用されていた。早大野球部の練習風景を観るため、よく放課後通ったものであり、40年ぶりの母校訪問はまた一人感慨深いものがあった。新しい図書館では、ハーンの直筆も含めて、貴重な資料が展示され

ていた。蔦に包まれた以前の図書館が今は会津八一記念博物館となっており、今回本物の鈴木朱雀画・小泉八雲像を拝見出来たことは大変幸せであった。

初日、河竹登志夫氏の特別講演は、誠に流暢な語り口で今尚詳細な事柄までよく覚えておられる記憶力に感銘深いものがあった。筆者はかつて氏の「演劇概論」を受講した経験があり、生粋の江戸っ子で梨園にも関係の深い氏の上品な東京弁を久しぶりに堪能した。

シンポジウム「東京時代のラフカディオ・ハーン」では、昨今の盲目的なハーン賞賛の風潮の中で、外国人パネリストの発言がよい刺激とはなかった。しかし、ハーンを評価しないnegativeな側面に力点が集まり、やはり日本と西洋の間におけるハーン理解の隔たりは埋まっていないことが露呈した。ハーンの死生観、人間の内面を探究するハーンのcosmicな環境文学、そうしたものへのささやかなsuggestionが外国人には依然として理解されていないことが再確認できた。

贅沢三昧!

英学史学会 全国大会に参加して

鉄森令子

全国大会に参加できて本当に良かった!

特別資料展、「小泉八雲像」、特別講演、シンポジウム、懇親会、翌日の充実した研究発表、どの企画も最高でこれを「贅沢三昧!」といわず何と言うのでしょうか。

特別資料展においてはハーンの直筆原稿をはじめ貴重な文献類を前に、連日の睡眠不足の疲れなどは一瞬にして吹き飛んでしまいました。そして、その勢いで迫力ある「小泉八雲像」を前にして感動のあまり言葉を失ってしまうほどでした。

感動覚めやらぬまま開会式が始まり、河村登志夫先生による「ハムレット独白の邦訳をめぐる」と題する特別講演の中で坪内逍遙の肉声テープを拝聴させていただいたことも希少価値であったと思います。

「東京時代のラフカディオ・ハーン」と題す

るシンポジウムではハーン研究の第一人者であられる、Roger Pulvers、池田雅之、仙北谷晃一、庭野吉弘の4人の先生方によるそれぞれのハーン論をめぐるバトルに会場は盛り上がりました。さまざまな視点からのハーン論に胸はわくわくすっかり酔いしれてしまいました。

大会第二日目、開国、ハーン、早稲田、という大会タイトルにふさわしいたくさんの研究発表が行なわれました。残念ながら全部を拝聴することはできませんでしたが、その中でも興味深かったのはハーン関係の発表、語彙に関する発表、そして、やはり松村先生の「直読直解の概念と用語について」、坂田豊先生の「戦後英語教育に尽くした早大教育学部の三羽鳥「萩原・中西・五十嵐」教授について - 英語の背景と教育の狙い - 」は、現代の英語教育へ有益な示唆に富んでいました。

贅沢三昧の2日間を終え、私は早稲田大学を後にし東京駅へ向かいました。

(身体はボロボロ、心はポカポカ、顔はニマリと・・・)

今回の大会に参加できたこの喜びをエネルギーに今後も研鑽を続けていきたいと思っておりますので、どうぞ、ご指導をよろしく願います。

>> 事務局より

新刊情報 小篠敏明・江利川春雄編著『英語教科書の歴史的研究』(辞游社, ¥2,500) が出版されました。明治以降の代表的な英語教科書を質的・量的に分析し、英学・英語教育の歴史研究に新たなアプローチを提案しています。

皆様の研究情報をお寄せください 会員の皆様の英学史研究に関する新刊、発表論文、講演、研究発表、市民講座、雑誌記事などの情報をお寄せください。ニュースレターでご紹介するとともに、次回以降の研究例会企画の参考にさせていただきます。

ニュースレター原稿募集! 英学史にまつわる「エッセイ」「研究メモ」「読書ノート」などの原稿をお寄せください。いずれも400~800字程度。電子メールまたはワープロで印字した原稿をお送りください。次号以降のニュースレターに掲載させていただきます。

<<広島英学史の周辺(6)>>

日本英学史学会創立40周年、ハーン没後100年、日米和親条約締結150周年など、英学に関係の深い多くの節目を迎えた2004年も残すところあと僅かとなりました。広島の英学にとっても節目の年は続きます。一昨年に創立100周年を迎えた広島高等師範学校ですが、来年2005年には広島高師の附属中学校(現・広島大学附属中・高等学校)が創立100周年を迎えます。春には百年史の刊行も予定されていますが、20年前の『八十年誌』(2冊本)を上回る大部のものになるとか。広島の英学を知る上で不可欠の資料がまた一つ加わることになりそうです。

英学史「周辺」の新刊が相次いでいます。特に文春新書では、今年の新刊だけ見ても、泉三郎『岩倉使節団という冒険』、平山洋『福沢諭吉の真実』、多胡吉郎『スコットランドの漱石』など、英学史研究からみて興味深いテーマが続いています。最近手にしたのは村上征勝『シェークスピアは誰ですか? 計量文献学の世界』。「統計学とはまさしく逸脱の科学(偏差の研究)である。また逸脱を観察し、測定し、解釈するための方法である。だからそれは、文体の研究にとってもっとも有効な道具のひとつとして受け入れられてしかるべきものだったのだ」という引用から始まる本書は、文章の計量分析が作者の推定に役立つことや、作者の心の変化を読み取る可能性を秘めていることなどを、様々な研究事例から分かりやすく紹介しています。ふと、ビートルズの全歌詞をコーパス化し、彼らの精神的変化を論じたかつてのゼミ生の卒業論文を思い出しました。小篠支部長の新刊においても研究手法として採用された計量分析。膨大なコーパスに基づく研究はこれからの英学史研究の手法として、大いなる可能性を秘めていると思われます。多数の台風来襲、そして大きな地震と、大変な一年でした。そして寒い季節が近づいてきます。皆様どうかご自愛のほど。高知でお会いできますことを楽しみにしています。(馬)

日本英学史学会中国・四国支部ニュースレター No.40

2004年11月7日発行
発行 日本英学史学会広島支部(代表 小篠敏明)
事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562
広島県立大学経営学部英語研究室(馬本 勉)
電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (馬本研究室直通)
e-mail: umamoto@bus.hiroshima-pu.ac.jp
日本英学史学会中国・四国支部ホームページ
<http://www.hiroshima-pu.ac.jp/~umamoto/eigaku/>